

それで、こうお答えになった。「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、既定の病を患っている人は清められ、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。私につまずかない人は幸いである。」（ルカ7：22～23）

「人の子が来て、食べたり飲んだりすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、知恵の子であるすべての者が証明する。」（ルカ7：34～35）

洗礼者ヨハネは荒れ野に立って、悔い改めの洗礼を呼びかけた。神への一途な信仰に感銘を受けた民衆はこぞって洗礼を受けた。ヨハネの洗礼運動は時代を画する大宗教運動になった。ヨハネは主イエスにも洗礼を授け、その時「あなたは私の愛する子、私の心に適う者」という天からの声を聞いた。ヨハネは、主イエスが神の子キリストであると受け止めたのである。

ヨハネは律法を厳格に重んじる人で、領主ヘロデが兄フィリポの妻ヘロディアと結婚したことは律法に違反すると異議を申し立てた。一介の野にあるラビからの抗議に怒ったヘロデは、ヨハネを捕らえ投獄した。ヘロデの牢獄は極めて過酷であった。獄中でヨハネは、主イエスへの信仰が揺らいだ。二人の弟子に、「来るべき方（キリスト）は、あなたなのですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか」と問わせた。どんなに強い信仰を持っているヨハネでも、あまりの苦境に、信仰を見失うことが起きた。二人の弟子がヨハネの問いをもって主イエスを訪ねた。病気を癒し、障害を治し、悪霊を追放していた主イエスは、「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、既定の病を患っている人は清められ、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。私につまずかない人は幸いである」と答えられた。神から遣わされた主イエスによって、苦しみから解放され、神の恵みで満ちた喜びの「神の国」が来ていると言われたのである。

二人の弟子が去った後、主イエスは群衆に言われた。あなたがたは何を見に荒れ野に行ったのか。風にそよぐ葦か。柔らかい衣をまとった人か。荒れ野で洗礼を説いたヨハネを見よ。彼は預言者以上の者である。「見よ、私はあなたより先に使者を遣わす。彼はあなたの道を整える」という預言のキリストの歩まれる道を整える「使者」はヨハネのことである。女の産んだ者のうち、ヨハネより偉大な者はいない、と。苦悩の中にある民衆は、ヨハネの説く神の正しさを認め、洗礼を受けた。しかし、律法学者たちはヨハネの呼びかけを受け入れず、神の御心を拒んだ。主イエスは、「笛を吹いたのに / 踊ってくれなかった。吊いの歌を歌ったのに / 泣いてくれなかった」と、子どもが歌う歌に似て、真っ当な対応ができない時代であると言われた。ヨハネが来て、パンも食べずぶどう酒も飲まず、禁欲的に神を証しすると、「あれは悪霊に取りつかれている」と侮蔑する。人の子（主イエス）が来て、食べたり飲んだりすると、「見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と」言って、軽蔑し拒否する。主イエスが大食漢で大酒飲みであったかは分からないが、人から排除された徴税人や罪人の仲間であったことは確かである。主イエスは、「知恵の正しさは、知恵の子であるすべての者が証明する」と、主イエスの言葉と行いの正しさは、神の真実を理解する知恵ある人によって証明されると言われた。